

## 各地区港湾の取組み報告

### 西日本四湾交流集会



大港労働、神戸港湾、関門港湾、博多港湾の西日本4湾は、7月20日(木)から21日(金)にかけて、オプザバーバに四国港湾、来賓として全国港湾玉田書記長をお招きし、「アートホテル大阪ベイタワー」にて恒例の交流集会を開催した。この交流会には、総数51名が参加した。

開催日の20日は、冒頭に全国港湾玉田書記長が基調講演を行い、Face To Faceの大切さ、世界の労働組合運動と日本の労働組合運動の違い(リバプール闘争、ストライキの重要性など)、23春闘中間総括や事前協議制度の歴史などを紹介して戴き、最後に港湾制度の確立や24春闘に向けて共に頑張る決意を述べられた。

その後、各港の報告に移り、四国港湾報告では、四国港運協会の認識の甘さを指摘し、所謂、お手伝い特例に対する対策、三島川之江港の現状、人手不足については労働者供給事業の有効活用など、課題が山積しているなどの現状が報告された。

博多港湾報告では、九州港湾拡大幹事会として関門港湾と鹿児島港湾と合同で協議を避けて行政交渉や地区協議を行った。産別協定順守パトロールや大運動会についてもコロナ感染予防の為やむを得ず中止となった。継続課題となっている石綿問題についての進捗状況や、阪神国際港湾(株)に対する減免措置、安全パトロールなどが報告された。



大港労働報告では、西日本四湾の歴史、大港労働春闘総括、制度事前協議に係る問題、万博にかんする渋滞・滞留問題、行政機関との協議、IR・カジノに係わる反対運動など、多岐にわたる報告を行った。

翌日の21日には、関門、博多、四国、全国港湾、大港労働四役及び、大阪港湾局4名の総数31名にて、大阪港海上視察を行った。

関門港湾報告では、行政交渉について、九州港湾と鹿児島港湾、全港湾九州地本が参加して行った。関門港湾としては、北九州空港港湾局及び下関港湾局に対して交渉を行い、労働環境整備や福利厚生施設の充実化を図り、人手不足改善について要望を行った。

神戸港湾報告では、コロナによる人と人の接触を避けるため、3年間のサマーフェスティバルの開催ができませんでしたが、4年振りに8月4日・金曜日の夕方から港湾の労働組合事務所が集まる波止場会館5階ホールで開催された。

フェスティバルに向けた準備のなかで、この4年間で変わったことは、まず毎年開催時にバンド演奏で盛り上げてきたバンドマンと音響チューニング者が、病などによりメンバーが揃わず、バンドなしのサマーフェスティバルとなった。次に困ったことは、毎年酒類を注文していた酒屋さんが潰れ、新たに生ビール樽とサーバーの借入を含めた酒屋さん探しであった。

バンドの代わりに波止場会館の協力のもとBGMでする減免措置、安全パトロールなどが報告された。

大港労働報告では、西日本四湾の歴史、大港労働春闘総括、制度事前協議に係る問題、万博にかんする渋滞・滞留問題、行政機関との協議、IR・カジノに係わる反対運動など、多岐にわたる報告を行った。

翌日の21日には、関門、博多、四国、全国港湾、大港労働四役及び、大阪港湾局4名の総数31名にて、大阪港海上視察を行った。

### ジヤンケンで暑さを飛ばせ!

#### 全横浜港湾サマーフェスティバル

対応を図り、酒類についてもネットが生ビール樽とサーバーを貸す酒屋さんが波止場会館近くにあることが分り一安心のもとで当日を迎えた。

今年には特に温暖化が進んでいることで、首都圏では7月初旬からの曇一つない快晴が続き、毎日30度超え、

10時10分に天保山より乗船し、国際フェリーターミナルへ万博会場へ大阪沖埋立処分場(フエニックス計画地)へ大浜埠頭(クボタ工場)へシャーパーリオン建設については未だに開始されていないこと。

毎日、野外で働く仲間の組合員の皆さんと共に、この猛暑を吹き飛ばす、真夏の夜長を過ごしていただければとの願いのもと、多く組合員が参加した。

上視察であった。乗船中は各視察場所においては港湾局からの説明があり、質疑応答する事もあった。

梅雨明けから夏秋からいまでは、毎年のように豪雨災害が起きている。2018年7月に14府県で300人以上が死亡・行方不明になった西日本豪雨は、記憶に新しいところである。今年の7月にも九州地方や山口県、秋田県、さらには隣国の韓国でも大雨による被害が出ており、台風シーズンを迎えるこれらが心配される▼気象庁によると、大雨の発生件数は1980年頃と比較して2倍ほど増えているそうだ。しかも、1時間の降水量が80ミリ以上や100ミリ以上といったより強い雨ほど、増加率が大きくなっているという。またこの大雨の原因は地球温暖化にあると言われている。気温が上昇すると、大気中の水蒸気量も増加。水蒸気は雨雲を発生させ、いったん降り始めると大雨になると考えられている。このまま温暖化が更に進行すると大雨の頻度や強さ、総雨量は増加するとされている▼大雨が降った際の対策としては、各自自治体が出す『避難情報』に十分注意したい。併せて、雨雲や浸水、洪水の警戒レベルを地図上に示す気象庁のウェブサイトを『ギキル』などで、危険情報を自ら積極的に取り入れることも大切だ。自治体の体制は必ずしも万全とは言えない。自らの命を守る意義と行動が求められる。



下船後、昼食会を開催し解散した。次回は神戸港にて開催を予定。

大港労働協事務局次長 渡辺

上視察であった。乗船中は各視察場所においては港湾局からの説明があり、質疑応答する事もあった。

万博会場については、現在(主に)鉄道工事(万博会場最寄り駅)をしており、パビリオン建設については未だに開始されていないこと。

下船後、昼食会を開催し解散した。次回は神戸港にて開催を予定。

大港労働協事務局次長 渡辺



梅雨明けから夏秋からいまでは、毎年のように豪雨災害が起きている。2018年7月に14府県で300人以上が死亡・行方不明になった西日本豪雨は、記憶に新しいところである。今年の7月にも九州地方や山口県、秋田県、さらには隣国の韓国でも大雨による被害が出ており、台風シーズンを迎えるこれらが心配される▼気象庁によると、大雨の発生件数は1980年頃と比較して2倍ほど増えているそうだ。しかも、1時間の降水量が80ミリ以上や100ミリ以上といったより強い雨ほど、増加率が大きくなっているという。またこの大雨の原因は地球温暖化にあると言われている。気温が上昇すると、大気中の水蒸気量も増加。水蒸気は雨雲を発生させ、いったん降り始めると大雨になると考えられている。このまま温暖化が更に進行すると大雨の頻度や強さ、総雨量は増加するとされている▼大雨が降った際の対策としては、各自自治体が出す『避難情報』に十分注意したい。併せて、雨雲や浸水、洪水の警戒レベルを地図上に示す気象庁のウェブサイトを『ギキル』などで、危険情報を自ら積極的に取り入れることも大切だ。自治体の体制は必ずしも万全とは言えない。自らの命を守る意義と行動が求められる。